

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2 年 3月 31日(令和元年度)

事業所名 はぐハウス

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7		その日の活動内容や、児童に応じて配置換えを行い必要なスペースを設けている	
	2	職員の配置数は適切である	7		看護師、保育士人数は基準より多く配置しているので維持していく	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7		児童の入らないキッチンの一部を除いては、バリアフリーにしている	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3	3	全スタッフと話し合いながら、業務改善に努めている	定期的な会議を引き続き行っていく 可能な限り職員全員で行えるよう改善する
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7		アンケート結果について話し合い、業務改善に勤めている	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7		ホームページで公開している	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	2	今年度は外部評価は受けていない	必要であれば検討する
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7		1~3ヶ月毎に一度医師、スタッフによる講習会を行っている	職員の希望する内容の研修を行えるようアンケートを定期的にとっていく
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7		独自のフェイスシートを作成しており、面談や電話連絡でも情報収集を行っている	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7		重症心身障がい児にあった標準化されたアセスメントツールはなく、独自のものを使用している	アセスメントツールの使用しやすいものが見つかれば検討する。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7		毎月の会議の中で、保育士を中心に2ヶ月先のプログラムを立案している	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7		様々な経験を積むプログラム内容を考えている。ただ重症心身障がいの対象の事業初なので、繰り返し提供する事で、心や身体の反応を見るプログラムも設定している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7		プログラム内容は支援時間の長さを考慮して検討している。長期休暇時は、季節も綱領してイベントを提供している	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7		個別の課題に対しては支援計画に上げて随時実践している。集団での活動は年間計画を立てており、毎日のプログラムで実践している	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	1	2	朝一の時間に全員居ない為、各出勤時に申し送りをしている	常勤以外の職員にも、周知できよう申し送りノートを設置し、確認したらサインをするようにしている
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	1	2	終了後の打ち合わせは、終了時間が一定では無いため、常勤スタッフのみで行い、翌日に再度申し送りをおこなっている。	常勤以外の職員にも、周知できよう申し送りノートを設置し、確認したらサインをするようにしている
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7		日々の支援は細かく記録をしており、スタッフ会議や支援計画の振り返りの際にも活用している	
18	定期的なモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7		全員6ヶ月毎のモニタリング、支援計画の見直しを行っている		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせで支援を行っている	7		ガイドラインの基本活動に上がっている全ての活動を実施している。		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7		主に児童発達管理責任者が参加しているが、児童に応じて看護師や保育士も参加をしている。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7		学校のホームページや学校送迎時に行事予定や下校時間等を確認したり、保護者に学校からの連絡プリントのコピーを提供してもらったり、連絡帳でお知らせ頂いたりしている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	7		医療的ケアの実施に関しては必ず主治医に指示書の記載をお願いしている。また病院で実施するカンファレンスには積極的に参加している。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2	1	園でカンファレンスのある児童は、参加している	該当する児童には情報共有を行っていくよう努める
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	2	2	卒後の生活介護施設への引き継ぎは希望があれば積極的に行っている	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	3	重症心身障がい児が主な対象者なので、保健所の研修や、重症児に特化した研修は、積極的に参加している。	各児童や事業に関係の深い研修があれば、今後も積極的に参加したい
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		5	現在は行っていない。保護者からの要望があれば検討するが、感染予防やケガ予防の観点から慎重に検討する必要もある	今後親からのニーズがあれば検討する
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	2	5	現在は参加はしていない	今後は必要に応じて連携が取れるように、積極的に努める。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		6ヶ月に1回のモニタリング時は面談し、発達課題やニーズについてお伺いしている。また連絡帳や送迎時にその日の様子を詳しくお伝えし、家での様子もお伺いしている。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		3	ペアレントトレーニングや食育に関する講習会の情報をお知らせしている。また個々の体調面や機能、装具の相談助言を行っている		
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7		契約時になるべく詳しく説明している	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7		お電話やLINEでの報告、相談を受けており、送迎時にも相談を受ける事もあり、なるべく迅速に助言が出来るよう対応している	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		3	夏祭りやクリスマス会の時、保護者同士会話が出来るように工夫したが、保護者会という名目での集まりは出来なかった	保護者同士の情報交換等の機会をもてるよう検討していく
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7		迅速に対応出来るように整備している	保護者が思っている事を、言いやすいよう配慮する事も心がける
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7		毎月1回、「おたより」をお渡しし、支援活動報告を行っている	
	35	個人情報に十分注意している	7		写真の掲載や個人情報、支援計画の取り扱いについて保護者と書面で確認している	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7		支援の際は子どもの意思を感じ寄り添う支援を心掛けている。モニタリングは懇談形式で時間をかけて保護者との意思疎通を図っている	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		3	会場を借りての季節イベントなどは、利用児童さんのご家族、行政の方など参加してもらっている。施設内で行うイベントは、ご近所の方にもお声かけはしている。	今後もイベント時、ご家族やお友達、地域の方、行政にも引き続きお声掛けをしていきたいと思う

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	1	3	各マニュアルは作成している。 感染マニュアルはいつでも見れるよう掲示している	今後他のマニュアルも順次保護者会で説明していきたい。災害に備え保護者と事業所間のライン交換を行っている
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7		消防、災害訓練は年間計画の中で立案しており、実際に行っている	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7		毎年外部研修に参加し、その報告も兼ねて事業所内研修を行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7		ケガや命に係わる事が予想される動きに関して、身体拘束の同意書を交わし、支援計画書にも記載をし、保護者に説明をしている	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7		医師のからの指示書もいただいており、保護者にもアレルギーの調査票をお渡しして、具体的に記載していただいている。食物アレルギーのある児童がいる場合は、食事時は児童同士の距離も保つようにしている。	
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7		ヒヤリハットは積極的に報告されており、毎月の会議で報告、対応策の検討、改善を図っている。		